会山行 No.2269

# 秋の集中　北アルプス：槍ヶ岳

**【秋の集中：総括】**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・岡村 乾

年間計画で９月は槍ヶ岳集中とした。この季節，猛暑は去り，それでいて日は長く，秋雨前線の影響さえ受けなければ，大きなことをするのに良い時期だ。コースごとにメンバーを募集し，①北鎌（３名），②大キレット（５名），③西鎌（４名），④飛騨沢（１名）となった。

総員１３名で同じコースを歩くのと比べ，集中形式の方が軽やかであり，それぞれの志向と実力に応じた山行ができる上，１つの会として１つの場所に向かうのはロマンがあると思う。

結果は以下の報告書に詳しい。読むと，それぞれ別のことを思って槍ヶ岳に向かうが，頂上付近で出会うと，その思いが重なる様子が垣間見えて楽しい。

今回，北鎌コースは山中で出会うことができなかった（報告書参照）。しかし，半径５００mには「集中」しており，それは「心の集中」であったと理解して，甘受されたい。

会山行 No.2269-1

# 秋の集中、槍ヶ岳：北鎌尾根コース

◆日程　　2019 年 9 月 13 日（金）～16 日（月）
◆メンバー　L：岡村，小山田，前田

槍ヶ岳集中の１つとして北鎌が挙がった。未経験の３人で行くことになり，コースガイドのビデオを日比野さんからお借りし，コース研究をした。日比野さんが行ったときには渋滞があるほど人がいたとのことだが，今回は，人も少なく，ルートファインディングで試行錯誤があった。そのため北鎌平でビバークを余儀なくされたが，全行程を歩き通せた。

**9 月 13 日(金)　天候：曇**

連休を前に有給を取得し，通勤ラッシュを尻目に上高地へ。今日は横尾までだから遅い午後の到着。横尾は平日にしては人が多い。すき焼き（食当：小山田）を食べた。満足度が高い。

CT：上高地 13：50 - 徳澤園 15：25 - 横尾 16：35

**9 月 14 日(土)　天候：晴れ**

何時になれば明るくなるかを確認しようと，暗いうちから行動を開始。この季節，５時になればヘッテンなしで歩ける。日が高くなると暑くなり，登り一本調子であり，へばる。

殺生小屋に幕営予定だったが，槍ヶ岳山荘まで行く。テントは受付で指定された場所に張るようになっている。テント場が空いていても油断せず，さっさと受付を済ます必要があるので，注意されたい。雲の上の展望は最高に贅沢であるも，標高のせいか頭に微痛。少し昼寝。

CT：横尾 4：30 - 槍沢ロッジ 6：00 - 水俣分岐 7：20 - 天狗原分岐 8：20 - 殺生分岐 10：40-槍ヶ岳山荘 11：50

**9 月 15 日(日)　天候：晴れ**

２時起き２時４５分出発。星空の下，ヘッテンの光を頼りに，水俣乗越(2490m)まで行く。稜線通しの梯子を結構下る。行く先の天上沢に，暗闇の中，ヘッテンの光がチラチラと見えた。

水俣乗越で明るくなる５時を待って天候と体調の判断をしてから下るつもりでいたのだが，暗いうちに着いてしまう。しかしいずれも問題ないことが明らかだったので下り始める。足場が脆く，浮石だらけの急斜面。ほんの少し下ると１か所だけロープがあり，その直後，右に草付きの中の小径が現れ，そこに入るとだいぶ楽に下れた。「ここを登り返すのは無理だ。下るからには最後まで行く覚悟を要する」と思っていたが，そこまでではない。事情があってヤバければ，原則どおり，ここを登り返して帰るべきである（現に登り返すという人に会った。）。

徐々に傾斜は緩くなり，樹林帯を抜けて伏流の河原に出る。北鎌沢出合(1820m)を見逃さないように，高度計も参考にしながら河原を進む。行ってみると水流はないものの顕著な沢の入口がある上，ささやかなケルンもあり，そこを北鎌沢出合と判断するに誰も異論がなかった。

ほんの少し行くと右俣左俣の分岐(1900m)がある。ここで先行パーティ(4 人)と出会ったが，われわれが追いつくと同時に出発していった。左俣は水量豊富だが，右俣は枯れたようになっていてわかりにくい。しかしここは右に行かねばならない。水を補給したりしてくつろぐ。私は「ガラガラ，バッシャーン」という音を聞いた。「何か聞こえたね」と小山田さんと前田さんに話しかけたけど，2 人には聞こえなかったという。

水流の横を登る。浮石多いが，難しくはない。葛葉川のツメみたいなもんだ。しばらく行くと稜線が見えてくる。そんなに遠くないように見える。前田さんが「この山はそんなに難しくないんじゃない？」「われわれのレベルが上がっているってことか」等，ナメた口を利いた。そうこうしていると不自然に停止しているさっきの先行パーティに追いついた。聞くと，手をか

けた岩が足の甲に落ちて痛め，もはや自力歩行ができず，ヘリを要請するという。携帯電話がつながらなかったので，私はアマチュア無線で非常通信(電波法 52 条 4 号)を発した。しかし，何らの応答がなかったので，前田さんが事情聴取して稜線に出たら通報することとした。

この先，先頭の小山田さんは，「押して，押して」と奇妙な呪文を唱えながら，ぐいぐい登って行った。ホールドは掴んで引かず，押して押さえるのが肝要だ。暑くなってきたが，日陰や湧水を探して休みをとりつつ進んだ。順調に進んだが，最後のザレは浮石だらけのひどいルートだった。稜線に出るには出たが北鎌のコル(2480m)よりは１つＰ８寄りのコルに出た。そこにも小さな幕営適地があった。後にこのコースにチャレンジする人は，現在地とコルの位置をもっと意識した方がよい。また，北鎌はいにしえより多くの人に歩かれているルートである。なので，道があまりに荒れているときに「名にし負う北鎌であれば，こんな荒廃ぶりもあるだろう」とは思わない方がよい。北鎌とはいえ，あまりに荒れているときは不合理な枝道に入った可能性が高い。

そこから泥と根っこの稜線を登る。ルートは明瞭だ。このあたりでフリースと銀マットを拾得してしばらく行くと単独行の兄さんがいて，落とし主だったので渡してあげた。この人は天上沢で１泊，独標で１泊とビバークで進むそうで，フリース，銀マットがなかったらきっと寒く侘しい夜を過ごしたことだろう。良いことをして徳を積んだ。

樹林帯を抜け，ハイマツが目立つようになるとＰ８に到着。行く手に天狗の腰掛（Ｐ９，2749m），独標（Ｐ１０，2899m）が見えた。Ｐ８からは携帯電話がつながったので前田さんが前述のけが人について通報した。たまたまパトロール中のヘリが既に収容したとのことだった。

天狗の腰掛でハーネス装着。ここまでは迷う要素がない。しかし，独標は直登しないで右側をトラバースするという事前情報に意識が行き過ぎ，かなり手前で右に行くルートに誤って入り込み，戻るということをした。「右に巻く」と意識しているときに，結構明瞭な踏み跡が右に行くと，ついつい足を踏み入れてしまうのである。これには時間と体力を大いに消耗した。先行者でもいれば楽だが，この辺りでは全然いなくて，試行錯誤を繰り返すしかなかった。後にこのコースを辿る人は，「独標の基部」と呼ばれるポイント（残置ロープがある）がどういう所かを事前にしっかり情報を得ておくとよい。そこまで独標に近づいてからトラバースに入る。その先にある有名な逆コの字型の庇（ひさし）も，荷物が大きくなければ，まったく大したことがない。

独標をトラバースするとＰ１１からＰ１５までのピークを越えていくか，巻いていくかすることになる。ここからは疲労感もピークに達し，体力勝負だ。足が重くなる。基本は尾根通しで，巻く場合は千丈沢側を巻く。尾根通しの方が急峻で大変だが，巻いた場合はザレ場を登り返さないといけないことが多く，判断は難しい。何通りものルートがあり，どこを通るかで北鎌の印象は山行ごとに変わるのではないか。今回は晴れていたので良かったが，ガスっていたらちょっと厄介だ。その場合は尾根通しを行くしかないのではないか。

槍４世代が一望できるＰ１５を越え，北鎌平(2960m)に近づくころ，ビバークするか進むか

という話になった。私は，北鎌平から穂先まで１時間半と見積もっていたので，暗くなる１８時半にぎりぎり間に合うと踏んでいて，行くべきだと思った。１時間半歩けば，槍ヶ岳山荘に張ってある快適なテントに潜り込めることは誘惑的だ。「とりあえず北鎌平まで行ってそこで決めよう」と話した。しかし，歩き始めてから１４時間が過ぎていて，気力体力ともにかなり厳しい状況だった。それに暗くなってしまえば，順調にコースタイム通り進めるかわからないし，行き詰まることだってあると思えてきた。頭の中でいろいろ逡巡したが，快適さよりも安全を優先し，北鎌平でビバークすることを決断。前田さんと小山田さんにその旨を伝えた。

北鎌平には何張りかテントが張られていた。話すとだいたいみんな北鎌沢出合で１泊し，北鎌平で２泊目というのが多い。われわれの１日で空身で周るという計画は，「へぇ～」と，特異な感じで受け止められていた。どれだけ時間がかかるか想像がつかないコースだということを考慮すれば，この受け止められ方は当然なようにも思った。美しい夕焼けを見た。目の前の槍の穂先をチョイと越えれば温かい夕飯にありつけると思うと，うらめしくもあった。

中身を全部出してザックを下に敷いた。ロープを張ってツエルトをかけることも考えたが，そのまま被った方が暖かそうだったのでやめた。水と食料を分け合って，食欲はなかったが半ば無理やり食べておいた。着られるものを全て着込んで，各自でツエルトをかぶって寝た。星と月が美しい夜で，夜中まで穂先が見えていた。「寒いな」と思って歯をガタガタさせてしばらくすると暖かくなってくるから不思議だ。寝たり起きたりして長い夜をやり過ごした（翌日の体調などからすると，意外にもよく寝られたようだ。）。

CT：槍ヶ岳山荘 2：45 - ヒュッテ大槍 3：45 - 水俣乗越 4：50 - 北鎌沢出合 6：50 - 右俣入口 7：20 - 稜線 10：25-Ｐ８　11:40-天狗の腰掛（Ｐ９）11：50-独標の基部 13：20-（いわゆる）逆コの字 13：30-Ｐ１１　14:20-北鎌平 17：00

（記：岡村）

**9月16日(月)　天候：曇のち晴れのち少雨**

早朝、ツエルトを全身に被ってはいるものの、結露して少し寒い。でも寝れる。気づけば、他のパーティーは片づけを終えて出発の準備をしている。結局，我々が最後となった。

さあ！　いよいよ槍の穂先へのアタック。気持ちも高ぶる。霧雨状態で岩が濡れてはいるが、危険な箇所はなかった。そして、様々なレリーフをみながら少しずつ頂上を目指す。

登っていると、今まで死角になっていたが、頂上にたどり着いていた。丁度、祠の真後ろであった。当然、他の登山者も沢山いた。2 番手で上がってくる小山田さんを他の登山者の記念撮影の邪魔にならないよう、頭がでかけたところを引っ込めさせた。モグラたたきゲームみた

いな、そんな対応に自分でも笑ってしまった。そして、感動のクライマックス！　三人で肩を組み栄光をたたえる。「俺たち最高！！」な場面であった。北鎌ルートからのミッションを終えた我々はテントに戻り、岡村氏が用意してあったインスタントカップ麺を食した。まず、かさ張るカップ麺を何故に 3 個も持ってきたのか（しかも　ラ王！）・・・という事はさて置き、塩分の効いたショッパイ汁がウマイ！！疲れた体に最高のご褒美であった。

しかし、我々もノンビリとしている時間などない。明日は仕事。一番空いているであろう、新穂高方面へと向かうルートを選択した。

しかし先頭を岡村リーダーにしたのが悪かった！　何しろ早い！　なぜそんな急ぐ？　岡村＆小山田の二人は変態的速度で下っていく。ついて行けない・・・。いや、ついて行かないと決めて自分のペースで歩く。それでも休憩込みでも、コースタイムを遥かに縮めて新穂高に到着。発車間際のバスに乗り込み、平湯からもグッドタイミングで臨増便に乗継、なんと、松本駅に 17 時頃到着。大キレットチームには会えなかったものの、西鎌チームには会うことができた。北鎌チームにとってみれば、今回初めての集中とよべるものであった。それでも軽く挨拶を交わし、我ら念願の温泉へと急ぐ。タクシーにて５分位、温泉施設の瑞祥（ずいしょう）へ。マッタリと温泉に浸かり、そして美味しい食事、更には反省会。色々あったけど、「また行きたいね」・・・と思える沢山の刺激と経験が味わえた北鎌であった。

最後に、温泉で長く浸かりすぎたのか、のぼせてしまい、鼻血ブーという状況で恰好悪く終わってしまった。

CT：北鎌平 5：30 - 槍ヶ岳 7：00 - 槍ヶ岳山荘（テント撤収）7：30/9：00 - 槍平小屋 11：20-滝谷避難小屋 12：20 - 白出沢出合 13：25 - 新穂高温泉 14：55

（記：前田）

**（感想）**

やはり、北鎌尾根は、そう甘くはなかった。そして、必ずまた行こう、と思わせる場所だった。一般的に言われているルートファインディング、体力、クライミング技術、はもちろん必要だったけれど、要求されるそのレベルが、とんでもなく高いわけではなく、かといって気を抜いていい場面はなく、自分に足りないものを山から突きつけられる場所であり、同時に人気のない岩稜帯を槍に向かって辿るのは最高に楽しい経験だった。私の乏しい登山経験の中では文句なく一番心に残るルートだった。初めてのビバークも、天気がもったことと、仲間のおかげでなんとかなった。北鎌平でツエルトを被って見た満天の星と、黒々と聳える槍のシルエットは忘れられない。一緒に行ってくれた仲間に、心から感謝。

（記：小山田）